

今月のトピックス

- ┆ インフルエンザ警報が発令されました。
- ┆ 風しんの流行が継続しています。
- ┆ マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

- 1 細菌性赤痢: 1 件の flexneri (B 群) の報告がありました。インドネシアでの経口感染が推定されています。
- 2 腸管出血性大腸菌感染症: 1 件 (無症状病原体保有者 O157 VT2) の報告がありました。職場の定期検便で明らかになりましたが、周囲の有症状や感染者はいませんでした。
- 3 腸チフス: 1 件の報告がありました。ミャンマーでの感染が推定されています。最近の国内報告例のほとんどはアジア諸国等の海外からの輸入事例で、海外旅行が日常化したことにより増加傾向にあります。
- 4 デング熱: 1 件の報告がありました。渡航先 (カンボジア) での、蚊からの感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外 (アジア諸国等) での感染です。
- 5 レジオネラ症: 1 件の肺炎型の報告がありました。感染原因は現在調査中です。
- 6 レプトスピラ症: 1 件の報告がありました。国内での水系感染が推定されていますが、詳細な感染経路は現在調査中です。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの保菌動物 (ネズミ等) の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接接触する可能性のある労働などでの感染が報告されています。
- 7 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 3 件の報告がありました。うち 2 件は国内での感染が推定され、そのうち 1 件は性的接触による感染、もう 1 件は感染経路不明でした。残るもう 1 件は感染経路感染地域等不明でした。
- 8 急性脳炎: 40 歳代の報告が 1 件ありました。病原体、原因等不明です。
- 9 後天性免疫不全症候群 (HIV 感染症を含む): 1 件の無症状病原体保有者の報告がありました。国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 10 梅毒: 1 件の早期顕症梅毒 期の報告があり、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。
- 11 風しん: 13 件 (男性 10 件、女性 3 件) の報告がありました。依然として男性の報告が多い状況ですが、女性 (すべて 50 歳代) の 3 件はいずれも予防接種歴が確認できませんでした。現在、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などで流行が継続しており、横浜市でも報告が続いています。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20 ~ 40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>



- 12 麻しん: 30 歳代男性 (ワクチン接種歴 1 回 (1 歳時)) の臨床診断例の報告が 1 件ありました。麻しんの検査診断にあたっては国立感染症研究所の「[麻しん検査診断アルゴリズム](#)」をご参照ください。また、診断の確定には適切な時期の PCR 検査が有用です。検査については最寄りの福祉保健センターにご連絡ください。

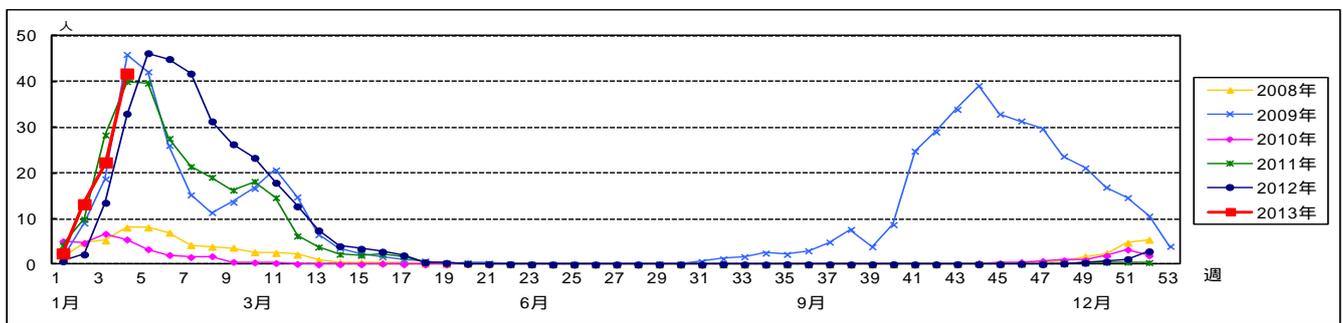
## 定点把握の対象

平成 25 年 週 - 月日対照表	
第 52 週	12 月 24 ~ 30 日
第 1 週	12 月 31 ~ 1 月 6 日
第 2 週	1 月 7 ~ 13 日
第 3 週	1 月 14 ~ 20 日
第 4 週	1 月 21 ~ 27 日

- 1 **インフルエンザ**: 第 4 週に市全体で定点あたり 41.80 となり、警報が発令されました。第 4 週での警報発令は昨シーズンと同時期です。学級閉鎖も急激に増加しています。第 4 週の迅速キットの結果は A 型 99.0%、B 型 1.0%、AB 型ともに陽性 0.1% でした。横浜市衛生研究所におけるウイルス検出結果では、AH3 亜型 95.5%、AH1pdm09 型 2.3%、B 型(山形系統) 2.3%と、AH3 亜型がほとんどを占めており、全国とほぼ同じ傾向です。市内で検出されたインフルエンザウイルスについて国立感染症研究所でワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を行ったところ、AH3 亜型株 (A/YOKOHAMA/159/2012) では 2 管差、AH1pdm09 型株 (A/YOKOHAMA/154/2012) で 1 管差、B 型(山形系統) 株(B/YOKOHAMA/82/2012) で 2 管差でした。なお、一般的に HI 価 4 倍(2 管差) 以内でワクチン株と類似しているといわれています。また、同じく国立感染症研究所で実施された薬剤感受性試験では、市内で検出された AH3 亜型株(A/YOKOHAMA/159/2012)、B 型(山形系統) 株(B/YOKOHAMA/82/2012) とも、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対する感受性低下は認めませんでした。

[インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

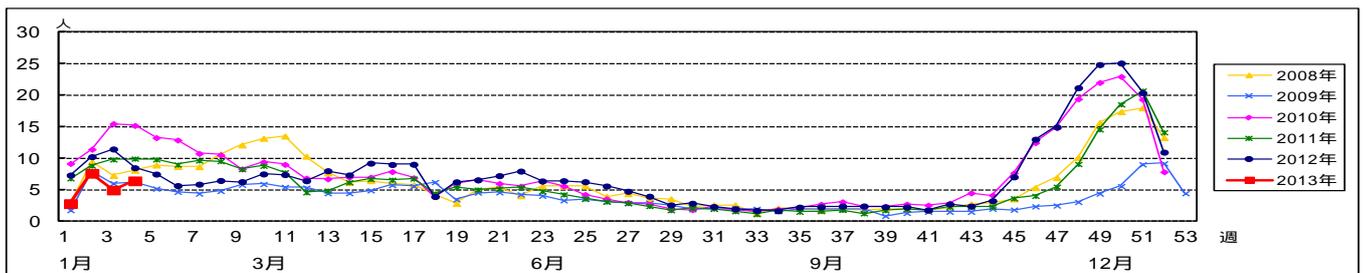
[インフルエンザ臨時情報](#)



- 2 **感染性胃腸炎**: 昨年第 50 週に定点あたり 25.11 と流行しましたが、第 4 週では 6.48 と落ち着いています。ただ、施設内等での集団発生は現在も報告されているため、引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

横浜市衛生研究所: 次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

横浜市衛生研究所: 横浜市感染症臨時情報 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>



- 3 **性感染症**: 12 月は、性器クラミジア感染症は男性が 19 件、女性が 12 件でした。性器ヘルペス感染症は男性が 7 件、女性が 11 件です。尖圭コンジローマは男性 3 件、女性が 3 件でした。淋菌感染症は男性が 10 件、女性が 0 件でした。
- 4 **基幹定点週報**: 全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり 1.00 を超える状況が長らく続いていましたが、昨年の年末に 1.00 を下回りました。横浜市でも第 52 週 2.00、第 1 週 0.00、第 2 週 0.00、第 3 週 5.00、第 4 週 1.33 と、先月報告分に比べやや減少傾向です。ただ、全国的にも以前のベースラインの 0.40 前後の状態より多い状況であり、引き続き注意が必要です。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 **基幹定点月報**: 12 月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 13 件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>